

2012年夏の主役は経大準硬式野球部!

経スポ

全日本四強!



本学準硬式野球部が、第64会全日本硬式野球選手権大会で見事ベスト4進出を果たした。

1回戦東北学院戦では、4回に山本(人科1年)の三塁打で先制、スクイズで追加点を奪い、このリードを田中(経営1年)、生田(経営3年)の継投で守りきり3対1で勝利。危なげなく初戦を突破した。

続く2回戦の相手は好投手を擁する名門愛知学院大学。接戦が予想されたがエース生田が得意のスライダーを駆使した気迫のピッチングで相手チームに得点を許さない。味方が4回に挙げた虎の子の1点をこのまま生田が守りきり1対0の完封勝利で2回戦も突破した。

このまま逃げ切れるかと思っただけ、ここまで好投してきた投手陣に疲れが見え始め、9回表に追いつかれてしまう。それでも延長10回相手の攻撃を気力で凌ぎきり、ついに上田の好走塁で勝ち越し。この1点を本学の持ち味である部員一体となった鉄壁の守りで凌ぎきり準決勝へと駒を進めた。

そして迎えた準決勝、相手は今大会の優勝候補筆頭と言われているディフェンディングチャンピオン中央大学。炎天下の連戦で選手達の疲れはピークであったが「大会前から中央大学と戦うことを目標としていた」部員達は、大学関係者、OB、そして控え選手達の大声援をバックに、気力を振り絞りチャンピオン中央大学に挑んだ。2回に上田の犠牲フライで1点を先制するも、6回に逆転を許し1対2とされる。その後、逆転を信じスタンド一体となって選手達は懸命の反撃を試みるが、中央大学の堅い守りに一歩及ばず、1対2で惜敗となった。本学準硬式野球部悲願である2度目の全国制覇は叶わなかったが全国の強豪校を次々と倒して勝ち上

発行:大阪経済大学
スポーツ文化振興室

経大



がり、その後、大会二連覇を成し遂げた中央大学をここまで苦しめてのベスト4は大躍進と言えるであろう。

また、花村(人科2年)を中心とした本学の応援は対戦相手からも「敵ながらあっぱれ」と賞賛され、その応援は日本一であったと言っても過言ではないであろう。「マウンドでも応援はよく聞こえた。ピンチの時に何度も勇気付けられた」とはエース生田の弁。この全員野球が準硬式野球部を全国ベスト4に導いた原動力となったことは疑いようがない。今大会で部を牽引してくれた4年生達は引退となるが、新チームも守りでは生田、田中の両投手、攻撃では長打力のある原(経営3年)を中心にした全員野球は他大学にとって脅威となるであろう。キャンプ原に今後の抱負を聞いてみたところ「関西で勝ち上がることは大変ですが来年も必ず全国大会に出場します」と力強く語ってくれた。今後の準硬式野球部に大いに期待したい。